

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.40			3.2
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
	1 室内騒音レベル			3.0	1.00	-	-	
	2 設備騒音対策			-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
	1 開口部遮音性能			3.0	0.30	-	-	
	2 界壁遮音性能			3.0	0.30	-	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.20	-	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.20	-	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-	2.4
2.1 室温制御				3.8	0.50	-	-	
	1 室温			3.0	0.60	-	-	
	2 負荷変動・追従制御性			-	-	-	-	
	3 外皮性能	外壁・屋根の断熱材を強化し、外皮性能を上げている		5.0	0.40	-	-	
	4 ゾーン別制御性			-	-	-	-	
	5 温度・湿度制御			-	-	-	-	
	6 個別制御			-	-	-	-	
	7 時間外空調に対する配慮			-	-	-	-	
	8 監視システム			-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.8	0.25	-	-	3.8
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	
	1 昼光率	昼光率: 2.7%		5.0	0.60	-	-	
	2 方位別開口			-	-	-	-	
	3 昼光利用設備			3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
	1 照明器具のグレア			-	-	-	-	
	2 昼光制御	カーテンと庇を組み合わせている		4.0	1.00	-	-	
	3 映り込み対策			-	-	-	-	
3.3 照度		照度: 500lx		4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
	1 化学汚染物質	F、VOCの放散量が少ない建材を全面的に採用		5.0	1.00	-	-	
	2 アスベスト対策			-	-	-	-	
	3 ダニ・カビ等			-	-	-	-	
	4 レジオネラ対策			-	-	-	-	
4.2 換気				2.3	0.30	-	-	
	1 換気量			3.0	0.33	-	-	
	2 自然換気性能			3.0	0.33	-	-	
	3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.33	-	-	
	4 給気計画			-	-	-	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
	1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.50	-	-	
	2 喫煙の制御	全館禁煙		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8
1 機能性				4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
	1 広さ・収納性			-	-	-	-	
	2 高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
	3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
	1 広さ感・景観	天井高: 3.1m		5.0	0.50	-	-	
	2 リフレッシュスペース			-	-	-	-	
	3 内装計画			3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計	トイレの床は防汚性に配慮し、外装の防汚性にも配慮をしている		4.0	0.50	-	-	
	2 維持管理用機能の確保	トイレ毎に清掃流しを設け、バルブ等は共用廊で操作できる		4.0	0.50	-	-	
	3 衛生管理業務			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.6	0.31	-	-	3.6
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	
	1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80	-	-	
	2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.33	-	-	
	1 躯体材料の耐用年数	等級2相当		4.0	0.23	-	-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	RC+合成樹脂吹付		4.0	0.23	-	-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09	-	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管: ステンレス、汚水・排水管: 塩ビ、Eは不使用		5.0	0.15	-	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル・タルケーブルなど通信手段の多様化を図り、地下がない	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.15	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重:2900N/㎡以上	4.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	敷地内や屋上など、バックアップスペースを計画的に確保	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物の熱負荷抑制		外壁・屋根の断熱材を強化により熱負荷を軽減している	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.5	0.20	-	-	2.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		2.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率機器を採用している	5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=40%	5.0		-	-	
集合住宅の評価			3.0		-	-	
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針が計画されている	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマなどに加えて、自動水栓を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.63	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	陶磁器タイル:正面玄関床、木質系セメント板:地下天井断熱材など	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁にGL工法を採用、移動間仕切り、OAフロアを採用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用している	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材を採用している	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が80%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場を確保し、出入口は交差点から離すなど配慮している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量を推計し、ゴミの分別回収容器・ボックスを計画	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			2.8	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.60	-	-	
2	砂塵の抑制		2.0	0.20	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストを満たし、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	